

2011年12月9日/千葉大学社会文化科学系総合研究棟2階

マルチメディア会議室

アカデミック・リンク・セミナー(第6回)

「新たな文献管理技術が切り拓く研究・教育の未来」参加者アンケート集計結果

当日参加者数：26名

アンケート提出数：17件

千葉大学アカデミック・リンク・センターでは、「生涯学び続ける基礎的な能力」「知識活用能力」を持つ『考える学生』を育成することを目的とし、デジタル時代における大学の学習教育環境の改革に取り組んでいきます。今後の活動のために、本日のセミナーに参加されたご意見・ご感想をお寄せください。

1. 本日のセミナーで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- ・ 科学技術の知識・知見の社会での共有
- ・ リアルタイム・Web 検索の重要性
- ・ Mendeley はクラウド上にデータをアップしシェアできる事は良いと思いました。今まで知らなかったのだから。
- ・ 文献整理術という非常に大学教員に密接なテーマで大変興味深かった。
- ・ Impact Factor が2年間のタイムラグがあることにも問題視していることが興味深かった。
- ・ Almost everything I heard today is new & exciting. Glad I attended today. Thank you!!
- ・ 大変よかった。企業家の姿勢（研究者の延長で社会貢献しようという）についても刺激的だった。
- ・ 英米のネットにおける出版事情も学べた。
- ・ これまでは先行研究の収集・整理などに多大な労力が必要だった。これからはその時間をより創造的な作業にあてることができる。便利な時代になった！まさに“アカデミック・リンク”という感じである。私もよい論文を書いて多くの読者に読んでもらいたい！！と思った。
- ・ 印象的だったのは Mendeley に「できること」と「やりたいこと」を明確に分けているということ。「やりたいこと」を楽しんでやる、それが世界を変革する、とても好感を持てた。
- ・ 根本的なところですが、Mendeley の使い方、活用法がよくわかりました。加えてポリシーや、出版についての考えも興味深かったです。
- ・ 文献管理の新しいあり方。
- ・ Mendeley のコンセプト、使い方など
- ・ 文献管理ソフトは研究者のためだけの閉鎖的なものだと思っていたが、iTunes のように気軽に使用できるものだと分かった。
- ・ 専門的にクローズで扱っていた情報がすでにオープンになっていた点が非常に革新的であり驚きであった。
- ・ 単に便利な研究支援ツールではなくて、新しい時代の研究環境を切り開く可能性を持っている事を知った。
- ・ Mendeley は論文整理用として使ってきましたが、単なるデータベースではない研究の新しい可能性を探求していることがわかり、非常に興味がわきました。
- ・ Mendeley のコンセプト、ただの文献管理ツールではないことがよくわかりました。
- ・ Ph.D 後に起業をする可能性が示されたことには大変興味を持った。
- ・ Mendeley のビジネスモデル

2. 本日のセミナーで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

- ・ 階層化の仕組み、アルゴリズム。(分類、インデックス、書誌 DB etc)
例：オントロジー,データ,リンク,知識工学(エキスパート)の活用！

2. 本日のセミナーで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

- ・著作権の問題はどうクリアされているのか？国ごとに違うのではないか気になりました。
- ・実際のコストが知りたかったと思います。
- ・資金の調達について。ビジネスモデルがわからなかった。
- ・その思想は共感できた。ただ、自分に使いこなせるか？日本語ベースの資料に対しても有効か？やはり英語が主体であろうか？PDFなどの論文データの整理が中心？書籍などには使えるのか？とにかく、使ってみよう。
- ・文系の論文はあまりデータとしてないような気がします・文系理系（というくくりが適切かわかりませんが）の研究者の使用比はどうなっているのか少し気になりました。
- ・Mendeley の使い方をもっと教えてほしい。
- ・Mendeley は現在英語で運用されているが、他言語版は予定あるいは構想しているのか
- ・Mendeley に収録されている文献の信頼性が不明。
- ・Mendeley の多くのサービスが恒久的に無料かどうかということ。

3. 今後もアカデミック・リンクではセミナーやシンポジウムを企画していきます。そこで、取り上げてほしいテーマや講師があれば、お書きください。

- ・日本における科学技術系の図書館(仮想でもいいが)のイメージとして一本筋がとおっているように思えない。又、クローズ性が強い。本日のセミナーをうけて取り上げてほしいテーマの例は、
①現状の文献管理とその問題・展望（日本及び海外）、②科学技術系図書館のあるべき姿(日本)
- ・Nature などの一流誌のエディター経験者などの論文審査の話など、論文投稿時に参考になる話が聞きたいと思います。
- ・教育と研究に関わるテーマを交互に行なってもらえるとありがたいと思います。
- ・電子ジャーナルの利。

4. 本日のセミナーの内容について等、その他、自由にご意見をお書きください。

- ・リカールの図書検索と OPAC のシステムをみているような感じでした。
- ・学校教育で小→中→高→大学とスパイラルアップで本セミナーのツールを利用して問題の発見・解決をはかれたらと思います。
- ・とてもプレゼンの上手な先生でやはり米国の人はずごい、と感じた。
- ・あまり多くの文献にふれていないので、恩恵もうけていないが、これから使うことになると思うので活用していきたい。
- ・It was great! But talking about Mendeley's future, big plan is kind of too much info. As an individual user, I just want to know how to take advantage of it.
- ・大変有意義でした。

4. 本日のセミナーの内容について等、その他、自由にご意見をお書きください。

- ・とても有意義な時間を過ごせました。より多くの人(学生にも・・・)に聴いてほしい話でした。ただ、会場からももっと質問できたらよいと思いました。司会の方がたっぷり質問されたので少し遠慮してしまいました。(興味深い問題でしたが・・・)
- ・授業と時間がかぶってしまい、途中からの参加になってしまい残念でしたが、とてもおもしろいお話がきけてよかったです。ありがとうございました。
- ・とても面白かったです。
- ・通訳の人がいてありがたかった。質問者の英語力を考えると、一語一句訳してもらわなくても大丈夫だったように思う。
- ・非常に革新的で、目からウロコ、出版社がなさない。
- ・Discussion での最初のコーディネータの質問が長すぎた。会場からの質問をもっと拾うとよかった。
- ・通訳を介すことでわかりやすくなっただが、質疑応答の時間が短くなってしまったことは少し残念だった。

5. 次の(1)、(2)について、該当するものに○をつけてください。

- (1) a. 学外から参加 (5件) b. 学内からの参加 (12件)
- (2) a. 学生 (7件) b. 教員 (6件) c. 大学職員(図書館職員を除く) (0件) d. 図書館職員 (0件)
- e. 出版関係 (2件) f. その他 (2件)

6. セミナーを何で知りましたか? (複数回答あり)

- a. Web(アカデミック・リンク・センター) (4件) b. Web(図書館) (1件) c. Web(千葉大学) (0件) d. 一斉配信メール(6件) e. ポスター(2件) f. センターからのメール(3件) g. Facebook・Twitter(2件) h. 人社研の授業の一環として参加(2件) i. その他(先生の紹介, 図書館総合展)(2件)

千葉大学 アカデミック・リンク・センターでは、セミナーの開催や関連する情報を提供しています。これらの情報を希望される方は、お名前・ご所属・メールアドレスをご記入ください。(既に登録されている方は引き続きお届けしますので、空欄で結構です)

お名前: ()

ご所属: ()

電子メールアドレス: 申込時に申請したもの それ以外 ()

ご協力ありがとうございました。

※7名が新規に継続的な情報提供を希望